

## 原子力空母ジョージ・ワシントンの交替について

本日、外務省日米地位協定室長が来県し、原子力空母ジョージ・ワシントンの交替に関して説明がありましたので、お知らせします。

1 来訪日：平成26年 1 月 23 日（木） 17：30～17：50

2 説明者：外務省日米地位協定室 中村 <sup>きみたけ</sup> 仁威室長

3 県の対応者：二見 研一政策局長

## 4 外務省からの説明概要

- 米原子力軍艦の安全性については、2006年に、米国政府から日本政府に対し、「合衆国原子力軍艦の安全性に関するファクトシート」が提出されている。
- 政府として、横須賀市長からの御質問を受けて、米国政府との間でやりとりを行う中で、米国政府からは、同「ファクトシート」及び2010年の「空母『ジョージ・ワシントン』のメンテナンスとして行われる放射能にさらされた固形廃棄物の横須賀における移送に関する合衆国政府からの説明」が空母「ロナルド・レーガン」にも適用されることを確認した。
- 政府としては、米国政府に対し、米原子力軍艦の安全性について、引き続き万全の対策をとるよう働きかけていく考えである。
- 原子力艦の原子力災害対策の見直しについては、現在行っている東京電力株式会社福島第一原子力発電所における事故を踏まえた原子力安全規制の見直しの検討結果等を踏まえ、関係府省において適切に対処していく考えである。
- 政府としては、横須賀市が置かれた状況を理解し、問題意識を受け止めている次第であるが、上述の見直しに関する政府内での議論や調整にはなお一定の時間が必要であり、現時点でのその具体的な目途を示すことは困難である。
- この間、万が一の事態が発生した場合の原子力艦の原子力災害対策については、政府としては、現行の「原子力艦の原子力災害対策マニュアル」に従って対応することとなる。
- 空母の交替に伴い米軍の部隊の訓練などに変更がないのかといった点については、可能な限り、関係地方公共団体の皆様に対して情報提供を行えるように努めてまいりたい。
- 日米両政府は、厚木飛行場から岩国飛行場への空母艦載機の移駐を2017年頃までに完了することを確認している。政府としては、引き続き本件を可能な限り早期にかつ着実に進めていく考えである。
- 政府として、今後とも、国の安全保障のために適切かつ必要な施策を進めるに当たっては、地元の皆様の声に耳を傾けながら、丁寧に取り組んでまいりたい。

## 5 県からの申し入れ概要

- 市民や県民がより安心できるよう、引き続き情報提供を求めるとともに、安全航行確認体制や防災対策等の確実な実施、騒音被害の軽減に向けた一日でも早い空母艦載機の移駐の実現を求めた。

(問い合わせ先)

神奈川県政策局基地対策部基地対策課

課長 井上 電話：045-210-3370

副課長 <sup>あにうち</sup> 兄内 電話：045-210-3371